

中之条にある、もう2基の徳本上人名号碑

1 はじめに

『諏訪形誌』や『諏訪形誌web版』で取り上げているとおり、上田市には「徳本上人の名号碑」が以下の6カ所に建立されていることは周知のとおりです。

- | | | |
|----------------|-----------|-----------|
| ・諏訪形の通称「カンカン石」 | ・願行寺（大門町） | ・芳泉寺（常磐城） |
| ・専念寺（下室賀） | ・観音寺（上田原） | ・常福寺（下之条） |

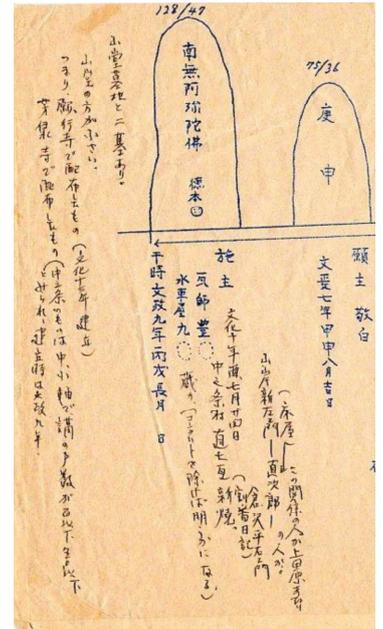
その後の調査で、さらに中之条地区に2基、浦里地区に2基、塩尻地区に1基の名号碑が残っていることがわかりました。また、願行寺の墓地内にももう1基の名号碑があることもわかりました。今回のイベントではこれらのうち、中之条にある2基の名号碑を訪ねたいと思います。併せて、上田から松本に至る「保福寺街道」の一部も歩きたいと思います。

さて、諏訪形誌活用委員会顧問北沢伴康（元諏訪形誌刊行委員会委員長）の文献調査により、『中之条誌』に「中之条地区に徳本上人名号碑が存在する」という記載があることがわかりました。この記載についての調査を進める中で、中之条自治会長中澤伸夫さんと『中之条誌』執筆者（編集委員長）の中沢賢さんから、ご助言と資料提供をいただき、中之条地区には2基の「徳本上人名号碑」が存在することがわかりました。

中沢賢さんからは、故中沢恵太氏が亡くなられた後、ご遺族の同意を得て調べさせていただいたメモに、中之条にある「徳本上人の名号碑」について、以下のような記述があるという情報をお寄せいただきました。部分的に引用します。

南無阿弥陀仏の徳本上人の碑はこの姥懐のほか山堂（注：大字中之条地籍の小学名）にもあったことがわかりました。山堂といえは墓地や葬儀関連の道具や建物、牛の爪切り施設など個人所有でない土地がありました。国道拡張の際にその地が一部移転整備されたので、現状は現地調査をしてみないと分かりません。

中沢恵太氏のメモを解釈すれば、中之条の徳本上人の2基の石碑は、願行寺と芳泉寺で配布したものである。念仏講の参加人数は、願行寺より芳泉寺の方が多いため、碑の大きさも姥懐の碑の方が大きいと恵太氏はメモしている。建立年は山堂の碑は文化13年（1816）、姥懐の碑は文政9年（1826）である。



2 姥懐庚申坂の名号碑

注：「姥懐（うばふところ）」は中之条地区内の小学名

『中之条誌（中之条誌編集委員会2017（平成29）年）刊』に、以下のような記述があります。320～324ページから部分的に引用します。

四 姥懐庚申坂の石碑群

旧古舟橋から旧町通り（東町、西町にはさまれた通り）を抜け、別所街道を進むと緩やかに曲がる姥懐の庚申坂に出る。その坂道の北側に30度から60度ほどの南向き斜面がある。その斜面に沿って2群の石碑が並んでいる。

平成20年後半頃までは中之条自治会、中之条自治会長OB会が年末の草刈り、清掃などを行っていた。現在は西側の石碑群は雑草におおわれ、東側の石碑群は繁茂する竹に囲まれている。

本石碑群については昭和後期に中之条自治会による調査が行われ、その報告書が残っている。今回（平成28（2016）年）の調査では石碑の文字等は経年変化判読が難しいので、当時の報告書を全面的に参考にした。

以上の記述に続いて「西側の各石碑」として、幅約1.4mに9基の石碑と、「東側の各石碑」として、幅約4.5mに5基の石碑が、下図のように並んでいくことが紹介されています。

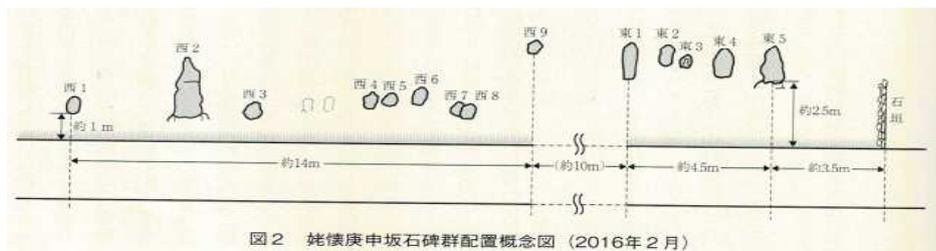


図2 姥懐庚申坂石碑群配置概念図（2016年2月）

『中之条誌』に掲載されている図版

また、『中之条誌』ではそれぞれの石碑について、以下のように記録されています。

- 西1：庚申塔
- 西2：壽水齋翁壽歳碑（1872（明治5）年）
- 西3：馬頭観世音（1883（明治16）年）
- 西4：馬頭観世音
- 西5：馬頭観世音（1883（明治16）年）
- 西6：道祖神（1927（昭和2）年、小坂井組のものを現在地に移転）
- 西7：馬頭観世音（1873（昭和6）年）
※西暦と和暦が違うので、どちらかが間違いと思われます。
年号から考えて、「明治6年」が正しいのではないかと推察できます。
- 西8：馬頭観世音（1891（明治24）年）
- 西9：馬頭観世音

- 東1：南無阿弥陀仏（1826（文政9）年）
- 東2：庚申（1824（文政7）年）
- 東3：石像（天明■■）
※天明年間は1781年～1789年
- 東4：庚申（寛政庚申（1800年））
- 東5：奉納大乘妙典本齋翁■■（1781（永安10）年）



「姥懐の庚申坂」東側から見た 西側の石碑群

この「姥懐庚申坂」は、旧保福寺街道の入り口付近にあたります。保福寺街道は、旧東山道をなぞるかたちで上田城下から上田市浦野、青木村、保福寺峠を経て岡田宿（松本市）までの約33kmを結ぶ街道で、現在でもあちこちに石仏群や昔の街道筋を偲ばせる景観などが見られます。「姥懐庚申坂の石碑群」もそのような、人々の往来が盛んだった場所に、街道の目印として設置されたものではないか、と『中之条誌』を編纂された中沢さんは考えているとのこと。諏訪形の「カンカン石」も別所街道沿いと思われる場所に建立されていることとの共通点もありそうです。なお、このような石碑群は築地地区にも残っています。

「姥懐庚申坂」について、『もくず会報31号（2020（令和2）年9月10日刊）』には以下のように記述されています。

御所堤防と中之条堤防の境目辺りから川向こうに向けてかつて木製の旧古舟橋が架けられていた。その辺りは江戸時代目尻町と呼ばれ、それから宮川を越え南に向かう通りは東側が東町、西側が西町と称され、松本に通じる幹線道路松本街道（保福寺街道）として栄えた。

南に向かうその街道はじきに江戸時代の測定の起点である小字関石（現在の西沢誠さん宅附近）

の三叉路を右折して西に向かう。これを曲がらず直進するのが北向観音堂道（別所街道）である。この道は上田原の段丘上へと緩く右旋回して登る。

その辺りは回り込んだ段丘の南向きの急な斜面で、北風を防ぎ冬でも暖かいので、老婆の懐のようだと親しまれ、一帯は姥懐と呼ばれ、この坂の道沿いに庚申等が並ぶので古くから庚申坂と呼ばれた。この道沿いの傾斜地には江戸時代から明治～昭和にかけて、各種の石碑石像が寄進建立され、今ではこの地の歴史を検証する、貴重な歴史遺産となっている。

8基あった馬頭観世音は農耕や運送に使ったウマの死を悼んで立てた供養碑である。

3基ある庚申塔は220年前の碑も現存、庶民の信仰を研究する貴重な資料である。

ひときわ大きい高さ2.1mの碑は、梅の水墨画の大家で文化人、中之条出身の西沢練齋翁の顕彰碑である。門弟達が明治5年（1872）に建立。当時の青年達が師を敬慕し建立した顕彰碑は近郷各地にあり当地方の教育文化史研究上重要な遺産である。

その他各種の碑を含めこの場所には240年前から昭和に至る14基の石碑が保存されており、これだけの多数の古くからの石碑の集積は東信地区でも珍しいでしょう。

執筆・資料提供：中沢賢氏 『もくず会報』は中之条老人会機関紙

【コラム 保福寺街道】

上田と松本を結ぶ保福寺道は、松本側からは上田道、上田側からは松本道・保福寺道と呼ばれていました。もともと古代の駅路としての東山道とほぼ同じ道筋であったこの道は、江戸中期ころまでは、松本藩の城米輸送や藩主の参勤交代にも活用されていました。

『上田市誌 近世の交通と上田宿 第1節 主要な道路 保福寺道（6ページ）』

保福寺道が北国街道の西脇新町で分岐する地点にある万延元年（1860）の道標には「北向観世音道」と書かれています。中之条の字関石で保福寺道と分岐した道は、庚申坂を上り、上田原村の長池の土手を通り…以下略

『上田市誌 近世の交通と上田宿 第1節 主要な道路 別所道（7ページ）』

「保福寺街道」は西脇新町（上田市常磐城）で北国街道と分かれ、青木村、保福寺峠、旧四賀村（現在の松本市四賀）を経て、松本市の岡田宿で善光寺西街道（北国西往還）に合流する約33kmの街道で、律令制時代に整備された「7街道」のひとつ、東山道とほぼ同じ経路であると考えられています。江戸時代には松本藩主の参勤交代にはこの道が使われるなど、主要な街道のひとつとなっていました。また、保福寺街道には、浦野宿や保福寺宿に古い家並みが残っており、沿道には古刹や石仏群なども見られます。

北国街道と保福寺街道の分岐（上田市常磐城）には万延元（1860）年に建立された「北向観世音道」の道標（右写真）があり、案内板には「明治28（1895）年に上田橋ができるまではこの道が松本や別所温泉方面へのメインストリートだった、という内容が書かれています。街道近くには芳泉寺、諏方泉神社（諏訪部）もあり、中之条側には宮川神社もあって、往時の様子も偲べれます。

実際には上田橋は明治23（1890）年に初代の橋が完成したのですが、2年後に大水で損壊して一部通行不能となってしまう、明治28（1895）年にあらためて開通した、という歴史があるようです。



「日本アルプス」を母国イギリスをはじめ世界中に広く紹介した（命名したのは別の人）ことで知られるウォルター・ウエストーンは、初来日したとき、来日3年目（1891年・明治24年）に上田からこの「保福寺街道」を通って松本市に入っています。この時、保福寺峠から見た北アルプスの姿に深く感銘を受けた、と自らの著書『日本アルプス 登山と探検』の中で語っています。現在、保福寺峠の南側に、ウエストーンを記念するレリーフ（石碑）が建てられています。なお、ウエストーンは「浦野宿までは快適だったがその先は悪路でたいへんだった」とも記しています。



さて、『もくず会報31号』には「御所堤防と中之条堤防の境目辺りから川向こうに向けてかつて木製の旧古舟橋が架けられていた」と記載されています。左の写真のあたりでしょうか。東山道の渡渉点とされる場所（現在の古舟橋北詰ローソン常磐木3丁目店付近）と旧古舟橋の場所はやや異なるようです。次ページの地図は明治初期の中之条村のもので、この地図の極楽寺の位置などから考えると、保福寺街道は現在の南小学校付近を通っていたものと思われる。



中之條村全図
 (長野県立図書館「長野県明治初期の村絵図・地図アーカイブ」より 一部を転載)

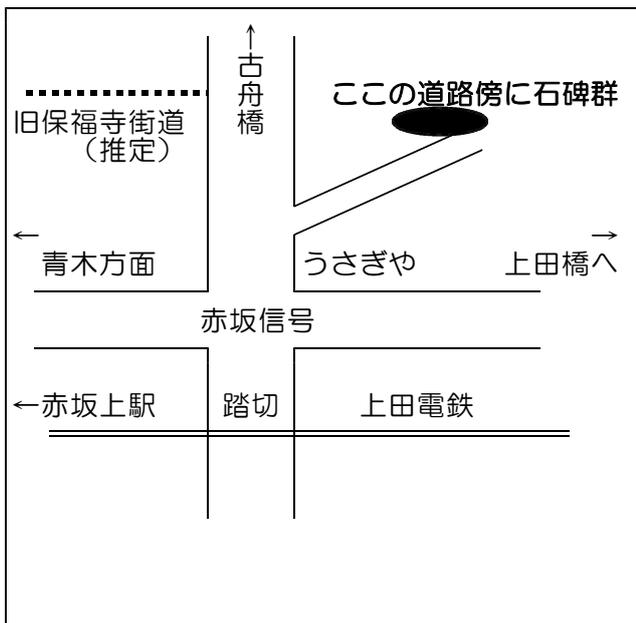
ここで取り上げたいのは『中之条誌』に「東1 南無阿弥陀仏」として記録されている石碑についてです。『中之条誌』323ページの写真(昭和の後期に撮影されたとされるもの。右の図版は『中之条誌』より)では、文字などははっきりと読み取ることができないものの、石碑の文字は徳本上人名号碑に共通する独特の書体で書かれていることがわかります。

碑文について『中之条誌』では「南無阿弥陀仏 徳本■ 施主 瓦師豊■ 水車屋九■ 文政九年」である、と記載されています。また、故中沢恵太氏のメモには、この名号碑は「文政9年(1826年)に芳泉寺から配布されたもの」と書かれています。

なお、諏訪形の「カンカン石」は1817(文化14)年の建立となっていますから、中之条の名号碑の建立は諏訪形のカンカン石建立の9年後ということになります。



東1 南無阿弥陀仏



「姥懐庚申坂の石碑群」は、赤坂の信号を北(古舟橋方面)にわずかに進んだところで右(東側)側のやや狭い下り坂(姥懐の庚申坂)を少し進んだ先の道路左(北)側です。『中之条誌』で「西2: 壽水斎翁壽歳碑」と記載されている、比較的大きな石碑が目につきます。また、その周囲に『中之条誌』で「西1~西9」と示された庚申塔、馬頭観音、道祖神なども見られますが、現在は行方がわからなくなってしまっている石碑もいくつかあるようです。

右写真の2軒の建物の間の道をわずかばかり下っていくと、道路左(北)側にまず、大きな「壽水斎翁壽歳碑(『中之条誌』の資料で「西2」とされている石碑)」が目につきます(左下の写真参照)。よく見ると、この石碑の周辺には『中之条誌』で「西1」から「西9」とされている石碑が点在しているのですが、前述のとおり、現在では行方がわ



からなくなってしまうものもあるようです。



左の写真で「壽水斎翁壽歳碑」の奥（東側）に見える竹藪の中に「東1」から「東5」の石碑があります。ただ、藪が深いので、知らなければ気がつかずに通り過ぎてしまうような場所です。

藪の東端には、比較的に見えやすい場所に「東4：庚申」と「東5：奉納大乘妙典本斎翁■■」があり、その西側、少し離れた場所に「東1：南無阿弥陀仏（1826（文政9）年）」の石碑があります（右の写真参照）。



石碑表面に見られる「南無阿弥陀仏」の文字は徳本上人の名号碑に見られる、独特のものであることがわかります。また、碑面に彫られた建立の時期からも、「徳本上人の名号碑」と見てまちがちなさそつです。上田市内に「もう1基の名号碑」があることが確認されました。

なお、建立に関わったと思われる人の名前も刻まれています。どのような人だったのかについての記録は残っていないようです。

姥懐庚申坂の石碑群



3 山堂（やまんど）の名号碑

前に述べたとおり、中沢賢さんからお送りいただいた、故中沢恵太氏が残した資料では、姥懐の庚申坂以外にもう一基、「山堂（やまんど）」にも徳本上人の名号碑が残っているとされています。



山堂は中之条の小字で、中之条の信号（中之条公民館南西）周辺のようなです。信号から県道77号線を70mほど西に進むと、左手（南側）に中之条の墓地があります。現地に建つ「山堂墓地の碑」には、「1992（平成4）年から1996（平成8）年にかけての県道長野上田線（県道77号線）の道路改良に伴って、この場所に移転した」と記されています。左の写真（中之条信号方面から撮影）で、手前に見えるのが「山堂墓地」です。



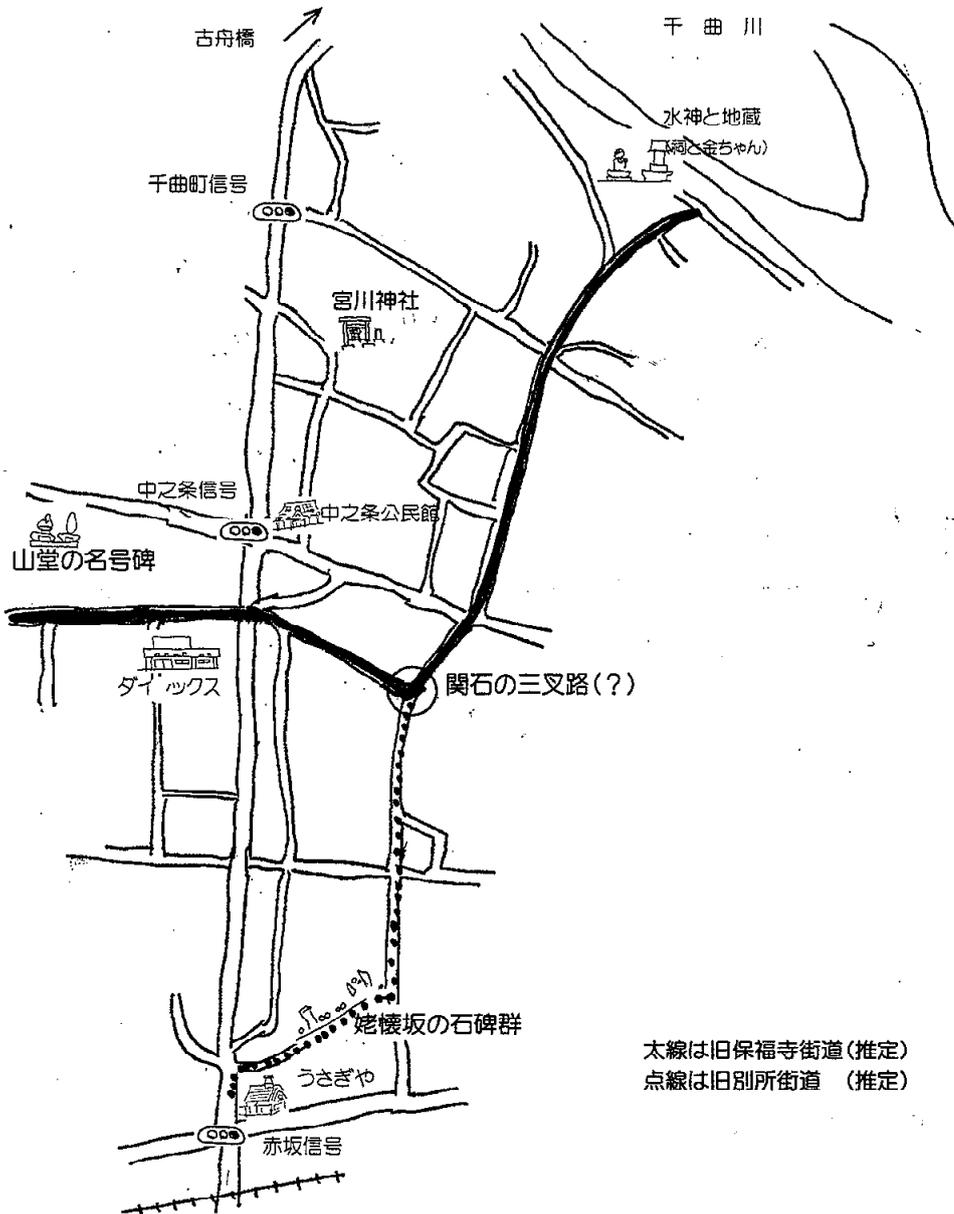
「山堂墓地」の北西に隣り合う場所に2基の石像・石碑が祀られています（右写真）。このうち、西（右）側の碑が「徳本上人名号碑」です。



故中沢恵太氏のメモによると、この名号碑は願行寺（上田市大門町）から「配布」されたもので、1816（文化13）年の建立となっています。この年は「カンカン石」建立の前年にあたります。また、氏のメモにある「姥懐の名号碑よりも小さい」という記述とも一致します。

私が訪れた時にも、石碑にはお茶が供えられており、今も地域の皆さんによって大切に守られていると感じました。

資料 中之条地区 ウォーキングマップ



太線は旧保福寺街道(推定)
点線は旧別所街道(推定)

【コラム 中之条地区 保福寺街道周辺の見どころ】

ー今回のイベントで歩くエリア近くの見どころを紹介しますー

1 宮川神社

宮川神社は、祭神を神功皇后、応神天皇、玉依比賣命とする歴史ある神社です。応神天皇は土着の信仰や外来の仏教も巻き込み、武家の守護神として知られる八幡神です。この神社は古くは「中之条八幡宮」と呼ばれ、中之条の氏神でした。また、『信濃國小県郡年表（上野尚志著）』には「建立不詳。正元元（1259）年四月上之条村鎮守再建棟札慶応頃までは存在せる由なるが明治に亡失。旧神職上条氏代々奉仕」とあり、鎌倉時代あるいはそれ以前の創建と見ることができます。天文17（1548）年の「上田原合戦」の時には、1月15日に武田家が歳越御神祭の神願を行ったという言い伝えもあります（『宮川神社縁起（昭和49（1974）年による）』）。江戸時代には奉納相撲が行われたという記録もあります。境内には「疱瘡神社」「秋葉神社」「稲荷神社」「日尻神社」「天神天満宮」「蚕影神社」「戸隠神社」「三峯神社」「金比羅神社」など数多くの神社や祠が祀られています。



2 日尻神社

現在では宮川神社に祀られています。元々は旧古舟橋のあたり、現在「きんちゃん」と呼ばれる（？）地蔵と祠があるあたりにあったものです。しかし、明治22（1889）年9月12日の暴風雨による千曲川の氾濫で、社有地のほとんどが流失してしまい、社殿の維持が困難となったため宮川神社境内に移転したということのようです。



現在の日尻神社
（宮川神社境内）



旧日尻神社付近（？）

3 念仏堂

県道77号線、中之条信号の少し東寄り（諏訪形寄り）北側に中之条地区の墓地があります。その墓地の北側には「念仏堂」と呼ばれる建物（堂宇）がありました。このお堂は往古の中之条村の姿をとどめる建物として大切に守られてきましたが、数年前の大風で屋根が破損し、残念ながら取り壊されてしまったとのこと。



念仏堂



この墓地の奥に念仏堂があったようです

参考資料：『中之条誌』（平成29（2017）年刊）

追加資料（北沢顧問による）

今回のイベントの中には保福寺街道（松本街道）にことも取り上げられています。そこで、次のことを加えたいと思っています。

この街道は律令時代の往古、西国の警備に赴く防人たちが通った道で、小県と筑摩との境の保福寺峠には悲喜こもごものエピソードがあり、峠上には万葉の歌碑があることを。

信濃路は今のほり道刈りばねに足踏ましむな沓はけわが背



魅力多い街道の難所

小県郡青木村と東筑摩郡四賀村（注：現在の松本市四賀）が1983（昭和58）年、郡境付近の東山道保福寺峠に建てた碑に和歌が刻まれている。

「信濃道者 伊麻能波里美知 可里波祢爾 安思布麻之牟奈 久都波氣和我世（信濃路は今のほり道刈りばねに足踏ましむな沓はけわが背）」

万葉集からの抜粋で「信濃の道は開通したばかりですから、木や竹の切り株を踏まないように履き物を履いて下さい。いとしいわが夫よ」という妻の心情が詠まれている。千数百年前の律令国家時代、防人、として四国に徴兵され、峠を越えていく夫を思いやる妻の姿が浮かぶ。

写真左端の人物は北沢さんと思われます



小県郡青木村、丸子町、東筑摩郡四賀村の境界を通る保福寺峠。今は雪に覆われ、訪れる人はいない。歌碑には万葉集から抜粋した和歌が刻まれている

上田市誌執筆委員の北沢伴康さん（66）＝上田市諏訪形＝は「この峠を、喜び勇んで越える者もいたし、生きて帰れないかもしれないという思いを胸に越えた者もいた。喜びと悲しみが交差する場所だったのではないのでしょうか」と話す。

保福寺峠は、東山道の難所とされた。伊那、諏訪、小県、佐久の各地方を通過していたそれまでの東山道は、703（大宝2）年、保福寺峠を通る現在のコースに改められ、峠を越えて中央の文化が上田小県地方に入った。

かつて官道だった東山道には、午の乗り継ぎや休泊に使われた駅（うまや）が各地にあった。小県郡青木村当郷にあったと推定されるのが浦野駅（うらののうまや）。青木村は11月ごろ、東山道沿いの県内市町村に呼びかけて、住民も楽しめるイベントも盛り込んだ「東山道サミット（仮称）」を開きたい考えだ。

北ア眺望や夕日 生活のにおい



明治中期には英国人宣教師ウォルター・ウェストンが、峠から見える北アルプスの風景を絶賛した。歌碑の近くには「日本アルプス絶賛の地」と記した石碑が建つ。夕日の眺めも美しく、県内の「サンセットポイント」に選ばれている。

最近では96年から、小県郡丸子町の鹿教湯温泉観光協会などで行う実行委員会が「里山あるき」を企画、希望者を募り、保福寺峠などを歩いている。健康づくりを意識した往復20kmのコースは好評。昨年、実行委員長を務めた斎藤宗治さん（30）は「田んぼや昔の道があって人間の生活のにおいを感じる。いろいろな花々があり、身近に自然があることもいい」と、この辺りの魅力を話す。

鉄道の開通などで明治末期から影を潜めている保福寺峠。山菜やキノコ採り以外に訪れる人は少なくなったが、その魅力を再発見する価値は十分ありそうだ。

中之条公民館について

当日の集合場所、中之条公民館と諏訪形公民館（当時は諏訪形公会堂）の建築経緯について少しばかりお話してみたいと思います。

諏訪形公会堂は大正14（1925）年の建築で、上田市民会館の前身である「上田市公会堂」と同じ建築材料が使われていました。これは、当時の細川上田市長（諏訪形出身）の肝いりもあり、市内では他には例がない、と言われたほどだったと聞いています。

この状況を見ていた中之条の人たちは「いつかこれ以上の建物を建てよう」と資金を調達し、建設に備えました。昭和5（1930）年に建設委員会を立ち上げ、翌々年の昭和7（1932）年に建物が完成しました。内部は格天井、証明はシャンデリアという立派なものでした。

諏訪形と中之条の住民同士の競争心は、昭和20年代ころまで暗黙のうちにあったと聞いています。